

茨城大学大学院理工学研究科都市システム工学専攻 令和6年度前期 学科教育点検報告

令和6年10月16日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 藤田昌史

1. 実施日時と場所

令和6年9月18日（水）10:45～11:20, 12:40～14:00 Teams 会議

2. 出席者

常勤教員：遠藤克彦，熊澤貴之，桑原祐史，小林薫，信岡尚道，原田隆郎，平田輝満，
藤田昌史，横木裕宗，久野靖広，車谷麻緒，辻村壮平，肥田剛典，稲用隆一，増永英治，
一ノ瀬彩，海野遥香，大村高広，吉田友紀子（全常勤教員19名のうちの19名が出席）

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

3. 添付資料

資料1-1 2024年度（前期）専攻_教育改善委員会議事録

資料1-2 都市システム工学専攻 FD 研修会議事録

資料2 2024年度（前期）学科・専攻教育改善委員会およびFD研修会議事次第

資料3 2024年度前期 授業点検改善表集

4. 授業点検の実際

4. 1 アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり．

常勤教員担当科目分： 12科目／常勤教員担当科目総数 12科目

非常勤教員担当科目分： 0科目／非常勤教員担当科目総数 0科目

4. 2 点検した科目

構造解析学特論，建築環境設計学特論，土木計画学特論Ⅰ，土木計画学特論Ⅱ，応用水理学特論Ⅰ，建築都市デザイン学特論，建築都市デザインスタジオⅠ，水環境学特論，応用土質力学特論，知的情報処理特論，建築史・意匠特論Ⅰ，建築都市デザインスタジオⅡ
前期に開講した専門科目の総数12科目中12科目（100%）

4. 3 具体的な点検方法

- ・ 前期に開講した12科目中12科目について，以下の方法で点検を実施した．各科目の具体的な点検結果は，資料1-1の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと．

- ・ 3 科目程度のグループ（資料 2 参照）ごとに、各授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表（資料 3）等の資料に基づいて、特に前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について説明し、それに対しての参加教員全員からの質疑・コメントを受ける形で、実施した。
- ・ 随時、提出済みの電子データや、茨城大学 FD/SD 支援システムを参加者が各自で確認し、それに関しても必要に応じ議論した。
- ・ ファイル提出された教員間ネットワークの活動状況（学部の授業点検に用いたものと同じもの）についても、確認した。
- ・ TA を利用している授業は、TA 利用の実際やその効果について授業資料にまとめている。
- ・ 各科目間の成績評価の分布状況を『成績分布表』を用いて確認した。（R3 機関別認証評価対応）

4. 4 （専攻の点検報告書のみ）特別実験，特別演習等の実施状況など

社会基盤デザイン特別演習Ⅰ，建築デザイン特別演習Ⅰ，社会基盤デザイン特別研究Ⅰ，建築デザイン特別研究Ⅰの4科目については、「①実施内容と状況」，「②実施の証拠と保存状況の確認」，「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検した。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 「応用土質力学特論」では、最終アンケート（回収率は 35%）では、配布資料，授業スピード，授業中の小テストなど概ね問題なかった。授業外学修の時間数が概ね 1～2 時間/回（80%超）であることを考えると、現状が適度であると考えられる。
- ・ 「建築都市デザインスタジオⅠ」では、建築と土木の融合の観点から水戸中心市街地の立体駐車場をテーマに取り上げた。現況調査から空間の提案まで全員がモチベーション高く取り組み、成果も良好と考える。
- ・ 「知的情報処理特論」，「応用土質力学特論」及び「建築史・意匠特論Ⅰ」では、実務を行っている外部講師にレクチャーを依頼するなど、より受講生の興味を引く授業を実施するように工夫した。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 「土木計画学特論Ⅰ」では、4 年生の早期履修生の人数増加により、想定していた授業進行のスケジュールを変更せざるを得ない状況が生じた。

- ・ 「建築都市デザインスタジオⅠ」及び「建築都市デザインスタジオⅡ」では、グループワークがうまくできていないという報告があり、最終成果物のレベルがやや下がっている傾向が報告された。
- ・ 授業内容そのものの問題ではないが、受講生の遅刻や欠席が目立ち、受動的な授業態度の改善を促す必要があることが確認された。
- ・ いくつかの授業において最終授業アンケートの回収率を高めることが課題であることが確認された。
- ・ 授業自体の問題ではないものの、4年生の早期履修者が受講したにも関わらず、単位取得に必要な申請を行っていなかったために単位取得の取り止めがでたことから、改善が必要である。
- ・ 今年度から、授業時間が90分から105分授業へ変更したことから授業回数が減り、授業内容の調整が必要な授業もあることが確認された。

6. 教育改善活動

詳細は、資料1-2 参照。

JABEE の認定審査に向けて、方針やスケジュール、進め方が提示され、学科構成員に共有された。授業における成績評価の方法について明確にすべきことや、授業アンケートをふまえた上での学生へのフィードバック方法について確認がなされた。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を Teams 内に設置した学科 FD チャンネルに保管し、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学連携カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

直近の産学連携カリキュラム改良委員会における議論を受けて、FD 研修会では、資料1-2の議事録における学科教育目標に関連する「都市システム工学序論」及び「情報リテラシー」について議論を行い、授業時間及び受講コマ数変更に伴う学生の理解度や授業内容の適切さについて確認された。

土木・建築で共通する科目や融合教育のメリット、AI・データサイエンス系の科目への繋がりなど、学科のカリキュラム改訂に関連して、今後の大学院の授業内容の改善について引き続き検討を続ける必要がある。

9. その他

特になし。

以上